

福祉サービス第三者評価結果

事業所名 金目保育園

発効：2017年3月3日（2020年3月2日まで有効）

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

公益社団法人神奈川県介護福祉士会 第三者評価結果

事業所基本事項

フリガナ	カナメホイクエン
事業所名 (正式名称を記載)	金目保育園
事業所種別	保育所
事業所住所 最寄駅	〒259-1207 神奈川県平塚市北金目2-9-24 JR「平塚」駅よりバス「北金目」下車徒歩7分 小田急線「鶴巻温泉」駅よりバス「みずほ小学校前」下車徒歩2分
事業所電話番号	0463-58-1882
事業所FAX番号	0463-58-1917
事業所代表者名	役職名 園長 氏名 酒井 かず子
法人名及び 法人代表者名	法人名 社会福祉法人浜岳福祉会 法人代表者氏名 理事長 酒井 かず子
URL	http://kaname2924.com/
e-mail	kanameho4641@shirt.ocn.ne.jp
問合せ対応時間	10:00~16:00

事業所の概要1

開設年月日	昭和46年4月1日
定員数	150名
都市計画法上の用途地域	
建物構造	鉄筋コンクリート鉄骨造陸屋根 2階建て
面積	敷地面積(1768.78)㎡ 延床面積(1380.76)㎡

事業所の概要2 (職員の概要)

総職員数	32名
うち、次の職種に該当する職員数	園長 (1名) 保育士 (25名) 栄養士 (3名) 調理員 (1名) 事務員等 (2名)

事業所の概要3 (受入・利用可能サービスの概要)

受入年齢	生後2か月~就学前	
延長保育の実施	有	備考:
休日保育の実施	無	備考:
一時保育の実施	有	備考:
障害児保育の実施	無	備考: 該当者なし
病後児保育の実施	無	備考:

保育の方針

・「心の視野の広い子ども」

公益社団法人神奈川県介護福祉士会 第三者評価結果

1. 総合コメント

総合評価（事業所の特色や努力、工夫していること、事業所が課題と考えていること等）

- 保育方針に「心の視野の広い子ども」を置き、保育目標に「①よい環境の中で、情緒の安定を図り、豊かな人間性を培う。②一人一人の能力が十分発揮できるよう配慮する。③集団生活の中で、多様な人とのかわりを大切に、社会性を培う。④健康で安全な生活が送れるよう、総合的な健康づくりに努める。⑤食育を通し、食べることを楽しみ、食事を楽しみ合うようにする。」掲げ、日々子どもたちの保育にあたっている。
- 金目保育園は昭和46年にスタートした歴史のある保育園だが、平成23年度に園の全面改築を行い、これまでの一斉保育では展開できなかった、子どもたち個々の発達に応じた自由保育を実践している。
- 保育室の中央にはプレイルームがあり、子どもたちがそれぞれの年齢に合った興味、関心の持てる遊びを、好きな時に自由にできるように環境を整えている。
- 各クラスのコーナーには、発達に応じて絵画ができるように、画用紙やクレヨン、クレパス、絵の具、鉛筆などを用意し、パズルやブロックは年齢に合った大きさのものを用意して、子どもたちがいつでも好きなもので遊ぶことができるようにしている。
- 4、5歳児のクラスには、ロフトに椅子を並べ、ピアノを用意している。子どもたちは吹きたい時に、自由にロフトに上がって、ピアノにチャレンジしている。使用後の消毒や片付けを保育士が確認している。
- 「健康で安全な生活が送れるよう、総合的な健康作り」を、園の保育目標のひとつに置き、毎朝、園庭にて上半身裸で体操、マラソンを行い、子どもたちの健康づくりに取り組んでいる。裸足保育も実践している。
- 3、4、5歳児は、月に1回、月曜日に集会を行い、季節の話や約束の話、新しい入園者の紹介などを行っている。季節や行事の話から、子どもたちが季節の移り変わりに関心が持てるようにしている。園の周辺は緑に溢れ、こどもたちはたんぼや畑で自然に触れる機会を充分もっている。
- 4歳以上の子どもは各クラスでグループを作り、当番活動を行っている。グループ名は子どもたちが考えて活動している。5歳児は、食事の後のテーブル拭き、フキン洗いなどを行い、人のために役に立つ喜びを感じている。
- 園の近くに畑を借りて農作物を育てている。ジャガイモやサツマイモ、夏野菜のキュウリやトマトなどの苗を植え、手入れをし、収穫している。収穫した野菜は、給食で調理してもらい、子どもたちの昼食に提供している。
- 温かいものを温かく食べてもらうために、スープやご飯は、お鍋や炊飯ジャーに入れて提供している。厨房から運ばれてきた食事は、子どもたちが取りやすいように並べ、子どもたちが自分で食べられる量を自分でお皿に盛っている。

評価領域ごとの特記事項

1	人権への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもや保護者に対する適切な言葉遣いや態度は、「職員心得」に記載し、採用時及び新年度の職員会議の場で説明している。職員には日頃より、正しい日本語を使うことを伝えている。 ○外国籍の子どもも、普通に接するようにしている。保護者への案内は、文書とともに、直接声を掛けて伝えるようにしている。 ○子どもの虐待予防や早期発見の連携については、平塚市内の園長会や市の子ども発達支援室などと情報交換を行っている。5歳児の家庭には、市の「すくすくアンケート」を夏休み過ぎに行い、問題の早期発見に努めている。 ○個人情報の保護については、「就業規則」や「要覧」、「職員心得」に明示し、職員会議の場で周知に努めている。 ○実習生の受入れ時には、受入れの何日か前と当日にオリエンテーションを行い、プライバシーの保護の説明を行っている。
---	--------	--

2	利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ○「要覧」に、家庭との情報交換の手段・方法を明示している。乳児は「連絡帳」で、幼児はホワイトボードや「お便り帳」で、家庭との連絡、情報交換を行っている。「連絡帳」は複写式のものを使用している。 ○懇談会は年2回、保育参観は今年度は年3回行い、保護者から園に対しての意見などを常に聴き取る体制をとっている。 ○「意見・要望等の受付書」や「意見・要望等の受付報告書」、「意見・要望等の相談解決結果報告書」を整備し、保護者からの意見や希望、要望を受け止めている。
3	サービスマネジメントシステムの確立	<ul style="list-style-type: none"> ○「苦情解決実施要綱」を整備し、苦情の受付から解決までの手順を明記している。苦情受付担当者や苦情解決責任者、第三者委員を置き、園内に苦情解決の仕組みを掲示している。 ○第三者委員は、理事会や評議員会で、報告を行っている。 ○「環境チェック表」や「遊具点検表」にて、子どもが触れる物品の点検や遊具の安全保持のための定期点検を行っている。環境係2名が、週に1回クラスを回り、チェックしている。 ○市販薬は預からないなど、「要覧」に薬の取扱を明記している。与薬が必要な子どもは、保護者が「投薬連絡表」に記載し、薬と一緒に持参している。園長及び担任が内容を確認し、管理、投薬している。 ○体調不良児の早期発見のために、一日に3回検温し、熱が高めの子どもはこまめに熱を測っている。体調不良により早退した子どもや、感染症に罹った子ども、入院した子どもの状況は期間や症状などを日誌に記録している。 ○園での対応が可能な程度のけがが発生した場合は、「けがの手当て」に、対処法や手順を明記している。病院にかかった場合は「傷病記録票」に、園内のけがの場合は「けがの記録」に記載している。軽いけがもヒヤリハットとして捉え、職員会議で対応策を検討している。 ○季節的な感染症を予防、予測するため、感染症の情報を印刷物や口頭で職員に説明し、保護者には掲示板で情報を伝えたり、配布物として渡している。 ○「防災訓練年間計画」を作成し、防災訓練を毎月、実施している。その中で地震を想定した避難訓練も年複数回実施し、引き取り訓練も行っている。地域との連携は、防災用具の貸し出しを主としている。
4	地域との交流・連携	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の子育て家庭への支援については、担当者を決め、職員会議で内容の検討を行い、職員全員に周知を図っている。 ○地域の子どもたちを対象に、毎週月曜日に開放保育を行っている。年間予定表を作成し、身体測定なども含め、園庭での遊びや室内遊びを実施している。 ○地域の子育て相談は、開放保育時に、毎回参加している保護者などの継続的な相談に応じている。子育て相談は、随時、受け付けている。 ○地域内の諸施設との情報交換は、法人の役員に、自治会長や小学校の校長が入っているため、役員会などにおいて、十分な情報交換を行っている。

5	運営上の透明性の確保と継続性	<ul style="list-style-type: none">○全職員が、年度末に「1年の反省・自己評価」を行い、行事の見直しなど、新年度に活かすようにしている。○玄関前の掲示板に、保育所の運営や事業内容などを掲示するとともに、ホームページに園の情報を掲載し、地域からの理解が得られるよう、情報を開示している。○保護者には、「年間行事予定表」で、保護者が参加できる行事を一覧表にして配布している。保護者に保育参観の情報を提供している。
6	職員の資質向上促進	<ul style="list-style-type: none">○研修委員を2名置き、研修年間計画に基づき計画的に研修を行っている。園外研修の参加は、参加の希望をとる他、園長と研修委員で参加者を選んでいる。○外部研修に参加した時には、出張報告書を提出するとともに、職員会議や内部研修会などで、外部研修報告を行っている。研修報告書は所定の場所に置き、いつでも職員が閲覧できるようにしている。○4～5校の実習生の受け入れを行っている。「保育実習オリエンテーション」にて、実習生に対応している。

2. 評価項目に基づく評価の結果

大項目1 保育環境の整備

評価機関が定めた評価項目に添って、調査を行った結果です

大項目1全体（調査確認事項全80事項）を通してのサービスの達成状況	95%
--	------------

大項目1の内容(概要)

1	人権の尊重	子どもや保護者に対する態度や言葉遣い 出生や国籍、性差などによる差別の禁止 子どもの虐待予防や早期発見のための地域の関係機関・団体との連携
2	プライバシー確保	プライバシー確保への配慮 個人情報保護の体制整備
3	家庭と保育園との信頼関係の確立	家庭との連絡、情報交換の体制 家庭の意向・希望の把握
4	苦情解決システム	苦情解決の体制整備
5	環境整備	温度や湿度等の管理 洗剤等の危険物の管理 おもちゃ、遊具等の管理
6	健康管理(感染症対策・救急救命を含む)	体調不良児、けがへの対応 感染症への対応 救急事態発生時の医療機関・家族等との連携
7	危機管理(防災・防犯)	火災や震災等の対応 日常の防災・防犯体制の整備
8	地域の子育て支援	地域内の子育てニーズの把握と支援
9	自己評価と情報開示	自己点検・改善活動の実施 地域への情報提供、情報開示 見学や保育参観の機会の設定
10	職員研修	職員研修の実施 実習生の受入れ、指導

<p>子どもと社会とのかわりにおいて、人に役立つことの喜びを感じたり、人と関わることの楽しさを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①少人数のグループに分け当番活動を行ったり、保育士のお手伝いをしてもらったりしています。 ②異年齢児と一緒に過ごす時間を設けています。 ③主張のぶつかり合いや喧嘩が起きても、けががないように配慮しながら、保育士はすぐに仲裁には入らず、子ども同士で話し合い解決できるように見守っています。</p>	<p>①4歳以上になると各クラスでグループを作り、当番活動を行っていること、グループ名は子どもたちが考えて活動していること、5歳児は食事の後のテーブル拭き、フキン洗い等を行い、人のために役に立つ喜びを感じていることを、「当番表」や訪問調査時の当番の様子で確認した。 ②日常の保育の中では、朝の時間、4時以降の時間は基本的に異年齢で交流していること、また月曜日の「仲良しデイ(開放保育)」では、3、4、5歳児がプレイルームで遊んだり、外遊びをしていること、年上の子に折り紙を教わったり、下の子の面倒をみたりする姿が見られることを、「開放保育案内」や「開放保育年間計画」で確認した。 ③子ども同士でトラブルがあった時には、子どもたちの主張を大事にして、危険に配慮しながら子どもたちの話し合いで解決できるように見守っていること、職員研修で「保育士が裁判官になってはいけない」ということを保育士に伝えていることを、「保育日誌」や聴き取りで確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、言葉のやりとりを楽しめるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①行動を一つ一つ言葉にしてゆっくり、はっきりと伝えるようにしています。 ②保育士は赤ちゃん言葉ではなく正しい日本語で話すように心がけています。 ③ごっこ遊びをする際には、保育士と一緒に会話をしながら、イメージが膨らむように関わっています。</p>	<p>①話したい気持ちを十分に受け止め、保育士もゆっくり、はっきり話しかけるように関わっていること、1歳児等ではオウム返しができるようになったり、保育士が名前を呼ぶと返事ができるようになったりして、言葉のやりとりを楽しんでいることを、「保育日誌」や聴き取りで確認した。 ②保育士は基本的に「です」「ます」調で話をするようにしていること、ら抜き言葉等日本語が乱れてきているが、子どもたちには正しい日本語で言葉を覚えてもらうようにしていることを、「保育日誌」や聴き取りで確認した。 ③子どもたちと一緒に砂場やごっこ遊び等で遊んでいる時も、保育士が会話をしながら日常の言葉のやりとりを楽しんでいることを、「保育日誌」や聴き取りで確認した。</p>

<p>生活や遊びなどを通して、話すこと・聞くことが楽しめることや言葉の感覚が豊かになること、自分の伝えたいことが相手に伝わる喜びを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①まずは保育士がじっくり子どもの話をきくことを心がけています。 ②絵本や紙芝居の読み聞かせをしたり、子どもが自分で本を手にとっていつでも読めるような環境を用意しています。 ③子どもがして欲しいことや分からないことを保育士に尋ねてきたときには、その欲求にしっかり向き合い答えるようにしています。</p>	<p>①子どもの片言の言葉にもじっくりと耳を傾け、何を伝えようとしているのかを感じ取るようにしていることを、「保育日誌」や聴き取りで確認した。 ②朝や午睡の前、夕方等の時間を使い、絵本の読み聞かせや紙芝居を行っていること、保育士との会話や絵本、紙芝居から言葉を豊かに育むことができるように配慮していること、また各クラスには好きな本をいつでも手に取って読めるように、発達に応じた本を準備していることを、「保育日誌」や訪問調査時の絵本の読み聞かせの場面で確認した。 ③言葉が増えてきたり、保育士の言葉を理解したり、自分で思いを伝えようとする姿を保育士は常にキャッチし、言葉のやりとりを積み重ねながら、言葉を習得できるようにしていることを、「保育日誌」や聴き取りで確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、楽しんで表現することができるようにすることや表現したい気持ちを育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①室内に絵画や制作等の活動ができるものを準備しています。 ②様々な素材の感触を楽しめるように環境を設定しています。 ③日々の生活や遊びの中で何かチャレンジをしたり、今までできなかったことができるようになった時に、その喜びを保育士や友達と共有し感動を深めています。</p>	<p>①発達に応じて絵画ができるように、画用紙やクレヨン、クレパス、絵の具、鉛筆等を、パズルやブロックは年齢に合った大きさのものを用意していること、毛糸の編み物やビーズ遊びの材料等さまざまなものを各クラスのコーナーに準備し、いつでも好きなものを作って遊ぶことができるようにしていること、2月にはアートフェスティバルを行い、子どもたちの作品や発達の様子を保護者に見てもらっていることを、「保育日誌」や訪問調査時の保育室の様子で確認した。 ②コーナーには折り紙、ハサミ、パズル、ブロック、色水、クレヨン等さまざまなものを準備し、子どもたちが自由に手に取って遊ぶことができるように工夫していることを、「保育日誌」や訪問調査時の保育室の様子で確認した。 ③服を着る意欲が出てきた子どもには、どの部分を持ったら服が脱ぎやすいか等を知らせ、できた時には皆で喜び合い、自信につながるようにしていることを、「保育日誌」や聴き取りで確認した。</p>

<p>生活や遊びなどを通して、自発的に表現する意欲を育むことやみんなと一緒に表現する喜びを味わえるようにすること、創造的に表現することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①打楽器を使ってリズムに合わせて音をならして楽しんでいます。 ②4、5歳児はピアノをクラスに設置し、吹きたいときに吹く練習ができることで意欲が高まっています。 ③発表会では遊戯や劇の発表をします。</p>	<p>①大太鼓や小太鼓、シンバル、鈴、カスタネット等を使い、子どもたちが日常の保育の中で遊んでいることを、「保育日誌」や訪問調査時に園で用意されている楽器で確認した。 ②4、5歳児のクラスにはロフトに椅子を並べ、ピアノを用意していること、4、5月に子どもたち全員にピアノの吹き方を教え、その後は子どもたちが吹きたい時に、自由にロフトに上がってピアノにチャレンジしていることを、「保育日誌」や訪問調査時の保育室の様子で確認した。 ③毎年12月上旬に発表会を行っていること、発表会では子どもたちが考えた劇や遊戯を保護者に披露していること、プレイルームには、せり上がりの舞台があり、保護者の前でスポットライトを浴びながら、さまざまな出し物を演じていることを、「保育日誌」や聴き取りで確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、聞く・見るなど感覚の働きを豊かにすることや身体を動かす楽しさを味わうこと、身近なものに対する興味や関心を引き出すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①リトミックを取り入れています。 ②毎朝体操マラソンをしています。 ③月に1回集会を行い、行事や季節の話をしています。</p>	<p>①各クラスにオルガン、楽器があり、朝の保育の中でリトミックを行っていることを、「保育日誌」や訪問調査時の保育室の様子で確認した。 ②「健康で安全な生活が送れるよう、総合的な健康作り」を園の保育目標のひとつに置き、毎朝、園庭にて上半身裸で体操やマラソンを行い、健康づくりに取り組んでいることを、「保育日誌」や「5つの目標」で確認した。 ③3、4、5歳児は、月に1回、月曜日に集会を行い、季節の話や約束の話、新しい入園者の紹介等を行っていること、季節や行事の話から子どもたちが季節の移り変わりに関心が持てるようにしていることを、「保育日誌」や聴き取りで確認した。</p>

<p>生活や遊びなどを通して、身近な様々なものに対する探索意欲を満足させることや社会や自然の事象や、動植物への興味や関心をもてるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①畑で作物を育てています。 ②田んぼやあぜ道で虫を捕ったり、草や花を見たりしています。 ③防災訓練の中で、自然災害の話をしています。</p>	<p>①園の近くに畑を借りて農作物を育てていること、ジャガイモ、サツマイモ、夏野菜のキュウリ、トマト等の苗を植え、手入れをし、収穫していること、収穫した野菜は給食で調理して出してもらい、子どもたちが食べていることを、「保育日誌」や訪問調査時の昼食の様子で確認した。 ②周りが田んぼや畑という環境なので、ザリガニやカエル、カマキリ、バッタ等が豊富にいること、アゲハチョウの幼虫からサナギ、サナギから蝶に変わる様子を皆で観察したこともあること、年長クラスには卒業旅行のお土産の「昆虫の表」が貼ってあり、子どもたちが関心を持って確認していることを、「保育日誌」や「昆虫の表」で確認した。 ③園が東北大震災の少し前に建て替えられたこともあり、防災訓練時には自然災害について必ず話をするようにしていることを、「保育日誌」や聴き取りで確認した。</p>
<p>自分から食べようとする意欲を育んだり、排泄をしようとする意欲を育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①バイキング給食を取り入れています。 ②子どもの目の前で食材を切って午前のおやつを提供しています。 ③近くの畑を借りて作物を育てています。収穫した野菜を給食やおやつで出しています。</p>	<p>①3、4、5歳児はバイキング形式で給食を提供していること、主食は子どもたちが持参していること、お代わりも自由で、子どもたちは自分でよそっていることを、「保育日誌」や訪問調査時の昼食の様子で確認した。 ②年6回、栄養士によるクッキングがあり、グループに分かれて皆でおやつ作りを行っていること、最近では畑で採れたサツマイモを使い、サツマイモ餅を作ったこと、乳児のおやつはバナナやリンゴを見せてから目の前で皮をむいていることを、「保育日誌」や「献立表」で確認した。 ③サツマイモやジャガイモ、夏野菜等を自分たちで栽培し、収穫し、それを食卓に並べることで、食べる意欲を育んでいることを、「保育日誌」や「献立表」で確認した。</p>
<p>身の回りのことを自分でしようとする意欲を育むことや基本的な生活習慣を身につけること、食事や休息の大切さを理解できるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①お座りが安定したら、便器に座る習慣をつけています。 ②着脱はできることから自分で行うよう声をかけています。 ③やってほしいことや分からないことは自分から保育士に伝えるように関わっています。</p>	<p>①保護者と連絡を取りながら、お座りが安定してくると、便器に座る習慣をつけていることを、「保育日誌」や聴き取りで確認した。 ②服を着る意欲が出てきた子どもには、どの部分を持ったら服が脱ぎやすいか等を知らせ、自分でできるように促し、声掛けをしていること、できた時には皆で喜び合い、自信につながるようにしていることを、「保育日誌」や聴き取りで確認した。 ③やってほしいこと等がある時は、言葉で伝えられるよう保育士が関わっていることを、「保育日誌」や聴き取りで確認した。</p>

大項目3 保育園の特徴

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもの豊かな心と身体をはぐくむための特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①生活リズムがバランスよく整えられるように配慮しています。 ②朝のはだか体操・マラソンを実施しています。 ③午前中は朝日を沢山浴びて活動しています。</p>	<p>①子どもたちの発達段階に応じて、1歳児は午前・午後のお昼寝などを、年中長児のクラスは静と動をバランス良く取り入れた遊びを工夫し、外では身体をいっぱい動かし、クラスでは制作等興味のある遊びを取り入れていることを、「保育日誌」や「年間計画」で確認した。 ②動の遊びでは身体の健康のために毎朝上半身裸で体操やマラソンを行っていることを、「保育日誌」や「年間計画」で確認した。 ③園舎はどこからも太陽の光が入るが、天気の良い日はできるだけ戸外で遊び、朝日を身体いっぱい浴びて毎日運動を行っていることを、「保育日誌」や「年間計画」で確認した。</p>
<p>保育環境に特別な配慮を必要とする子ども(長時間保育、障害児保育、乳児保育、外国籍園児)の保育に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①室内環境を発達に合ったものを用意しています。 ②外国籍の園児に対しては、ゆっくり話をしたり、やって見せたり、分かりやすいように関わっています。 ③宗教上の理由で食事制限がある子には除去食を提供しています。</p>	<p>①長時間保育の子どもも、いろいろな遊びができるように、室内にいつでもお絵かきや制作等の活動ができるものを準備していることを、「保育日誌」や訪問調査時の保育室の様子で確認した。 ②外国籍の子どもが数名いるが、子どもたちは日本語がとても上手で普通に会話ができること、保護者には、ゆっくりと繰り返し話すようにしていることを、「保育日誌」や訪問調査時の外国籍の親子とのやり取りで確認した。 ③宗教上豚肉が食べられない子どもには、献立表にしるしをつけ、保護者に渡していること、保護者にはそれに代わるものを用意してもらい、園ではそれらを除いたものを提供していることを、「献立表」や聴き取りで確認した。</p>

<p>健康管理に特別な配慮を必要とする子ども(アレルギー疾患をもつ園児、乳児保育、病後時保育など)の保育に関しての特徴的な取り組み(アレルギー食対応、個別食、離乳食など)について説明してください</p>	<p>①食物アレルギーがある子どもには個別トレイで除去食を提供し、代替食を家庭から持参してもらっています。 ②熱性けいれんがある子どもは1日3回以上検温し、連絡帳に記入し、37.5℃以上で連絡をしています。 ③低体重児や疾患により離乳食が遅れている場合は、子どもに合ったものを提供しています。</p>	<p>①卵や乳製品等のアレルギーのある子どもが数人いて、医師の診断書と食べ物への指示書を提出してもらっていること、保護者に献立を確認してもらい、除去食を提供し、代替食を持ってきてもらっていること、他の子どもとトレイの色を変えて間違いのないようにしていることを、「献立表」や聴き取りで確認した。 ②体調がいつもと違う子どもは、すぐに検温していること、熱を出しやすく、けいれんを伴う子どもは頻繁に検温し、連絡帳に記入して保護者に伝えていることを、「連絡票(複写式)」や聴き取りで確認した。 ③1000g以下で生まれた低体重児がいるが、離乳食が他の子どものように順調に進まないこと、保護者との連絡を密に取り、その子どもに合った離乳食を提供していることを、「連絡票」や聴き取りで確認した。</p>
<p>食に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①セレクトメニューを取り入れています。 ②スープやご飯は温かいものを提供するため、お鍋や炊飯ジャーに入れて保育士が食べる前によそっています。 ③季節の食材を子どもが手に取れるよう食材の展示をしています。</p>	<p>①厨房から運ばれてきた食事は、子どもたちが取りやすいように並べ、自分で食べられる量を自分でお皿に取り、トレイに載せていけるようにしていること、お代わりも自由に自分でよそっていることを、訪問調査時の昼食の様子や聴き取りで確認した。 ②温かいものを温かく食べてもらうために、スープやご飯は、お鍋や炊飯ジャーに入れていること、危険防止のために保育士がよそっていることを、訪問調査時の昼食の様子や聴き取りで確認した。 ③子どもたちに、できるだけ素材を知ってもらうために、食材の展示をして、手にとって、においや感触を確認してもらっていることを、聴き取りで確認した。</p>

<p>家庭とのコミュニケーションに関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①ホワイトボードに保護者向けのお知らせを記入しています。 ②朝の受付に保育士が1名付き、連絡事項や薬の受け取り等を行っています。 ③乳児は連絡帳を使い、日々の様子を伝えています。</p>	<p>①保護者との連絡を密に行っていること、各クラスには廊下側とクラス内両方から引き出せる引き出しがあり、その上に保護者への連絡事項を記載しているホワイトボードがあること、保護者はそれを見て内容を確認していることを、訪問調査時の保育室の様子や聴き取りで確認した。 ②登園の際は必ず保育士が視診を行い、家での様子や連絡事項を保護者から聞き、クラス担当だけでなく、保育士が全園児を把握して対応していることを、聴き取りで確認した。 ③乳児は個人別に連絡帳があり、毎日、家庭や園での様子のやり取りをしていること、乳児だけでなく、園内で発熱やけが等があった時には、複写式の用紙を使い、保護者にその時の状況を細かく連絡していることを、「連絡帳」や聴き取りで確認した。</p>
<p>地域の子育て支援に関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①毎週月曜日に開放保育を行っています。 ②必要に応じ、園内見学の受け付けや入所の相談にのっています。 ③育児相談の受付も随時行っています。</p>	<p>①地域の子どもたちを対象に、毎週月曜日に開放保育を行っていること、年間予定表を作成し、身体測定等も含め、園庭での遊びや室内遊び等を実施していることを、「開放保育年間計画」や「開放保育案内」で確認した。 ②希望があれば園内の見学や入所相談を行っていることを、聴き取りで確認した。 ③育児相談は開放保育の時に受けることが多いこと、数としてはそんなには多くないことを、聴き取りで確認した。</p>

3. 利用者への調査

～ 保護者アンケート調査を実施した結果です ～

(1) 調査の状況

調査期間	平成28年9月
調査方法	所定の調査票(アンケート票)により実施した。
調査対象者の匿名化	調査は無記名で行い、調査結果から回答について個人が特定化される場合は、評価機関で匿名化を図った。
アンケート調査票の配布	対象者には事業所を經由して調査票を配布した。
アンケート調査票の回収	記入済みの調査票は対象者から直接、評価機関に郵送された。
回収の状況	調査票配布数 138通 : 返送通数 81通 : 回収率 58.7%

(2) 調査結果の傾向

◆アンケート調査全体の傾向

- 項目別の回答状況では、「保育方針の周知」や「在園中の体調不良やケガの説明」、「インフルエンザなどの感染症の情報提供」、「保育内容」、「子どもに対する職員の対応や態度」、「子どもが楽しく過ごしている」について、高い満足が得られている。
- 一方、「園での子どもの様子の報告」や「子どもの個別の事情への相談」、「懇談会など園との意見交換」、「緊急時の連絡体制」については、より一層の努力が期待されている。
- 個別意見では良い点として、「職員の対応や挨拶」や「職員が明るく、元気」、「園全体で子どもと親の顔や名前を覚えている」、「相談しやすい」などが挙げられている。
- 保育内容では、「いろいろな経験をさせてくれる」や「子どもの自立を促している」、「行事が充実している」などに、多くの意見が寄せられていた。
- 一方、改善を望む点としては、「職員の対応や態度」や「園での子どもの様子がわからない」、「エアコンの使用方法」、「アレルギー食の対応」などの意見が挙げられている。園に改善を望む点について、具体的な内容が挙げられていることから、保護者への説明や園からの情報を厚くし、信頼関係の構築に一層の努力をされることを期待し、今後の取り組みの課題として位置付けることを期待する。